日本産婦人科内視鏡学会の実技研修会のこれまで

山本泰弘，浅川恭行

日本産科婦人科内視鏡学会の実技研修会とは

日本産科婦人科内視鏡学会では，安全な腹腔鏡手術の普及を目指して1996年から幼若ブタを用いたアニマルラボ実習を中心とした実技研修会を行っている。

2000年代に入り，社会的に内視鏡手術の低侵襲性，整容性が取り上げられ普及が進む反面，適応の限界，特有の合併症，手術手技の習得にまつわる問題が指摘されつつあった。そこで，2002年に日本産科婦人科内視鏡学会では，他領域に先駆けて技術認定医制度を発足させた。技術認定医制度の発足に伴い，実技研修会では2003年の第15回研修会から基本的な手技習得に有効なタスクを設定した統一カリキュラムを導入することとなった。

その後，2008年からは実技研修会の参加を技術認定医の申請時に必要な業績に加算可能となった。また，同年12月の第25回研修会からはこれまでのカリキュラムをプライマリコースと名称を改め，技術認定取得後のより高度な手技研修を目的としたアドバンスドコースがカリキュラムに追加された(**図1**)。

当初年2回開催されていた実技研修会は2012年からは年3回開催されている。本稿脱稿時点までに46回開催され，延べ参加者は1,203名を数えることとなった。

図1 日本産科婦人科内視鏡学会実技研修会のカリキュラムの概要

修練中	技術認定医取得後
【プライマリコース】	【アドバンスドコース】
アプローチ法	アプローチ法
基本手技	器具の操作
器具(パワーソース)の基本操作	リンパ節郭清
止血操作	連続縫合などの高度な縫合操作
体腔内での縫合手技	単孔式手術

カリキュラムは受講者の経験や目的に応じた2つのコースに分かれている。「修練中」,「技術認定医取得後」はあくまで技術的な目安であり，技術認定医未取得であってもアドバンスドコースを希望することは可能である。